

## 鳥取県内のシーズ発表会「山陰発技術シーズ発表会 in とっとり」第2報

○加藤 優<sup>\*1</sup>，三須 幸一郎<sup>\*1</sup>，山岸 大輔<sup>\*1</sup>，清水 克彦<sup>\*1</sup>  
(<sup>\*1</sup>鳥取大学 産学・地域連携推進機構)

### 1. はじめに

企業における新事業やベンチャービジネス創出のためには、大学等によって既にある程度まで開発の進んだ新技術、すなわち大学等の有する知的財産などの技術シーズをうまく利用することが有効と考えられる。そこで、東京など都市圏では、独立行政法人科学技術振興機構（JST）と大学等の協働による「新技術説明会」や、民間事業者等が主催するマッチングイベントが盛んに開催され、大学研究者や特許の発明者などが新技術の内容を説明することで企業との連携を図っている。

一方で地方に立地する大学にとっては、地域の企業との協働や地域での新事業創出も重要である。そこで発表者らは、大学等で開発された新技術の地域での活用や事業創出等を目的として、平成21年度から「山陰発技術シーズ発表会 in とっとり」を鳥取県内において毎年1回開催している。本発表会の概要については、前回報告<sup>1)</sup>した通りである。今回の事例発表では、6回目となった平成26年度の発表会について概要を報告すると共に、最近商品化されたテーマについて紹介する。

### 2. 「山陰発技術シーズ発表会 in とっとり」過去開催履歴

本発表会はこれまで、下記の通り平成21年度から年1回開催し、平成26年度までに6回開催している。

- ・第1回：平成21年9月13日(日)：「とりぎん文化会館」（鳥取市）
- ・第2回：平成22年9月3日(金)：「米子コンベンションセンター」（米子市）
- ・第3回：平成23年8月26日(金)：「鳥取産業体育館」（鳥取市）
- ・第4回：平成24年10月5日(金)：「米子コンベンションセンター」（米子市）
- ・第5回：平成25年9月6日(金)：「コカ・コーラウエストスポーツパーク 鳥取県民体育館」（鳥取市）
- ・第6回：平成26年9月26日(金)：「米子コンベンションセンター」（米子市）

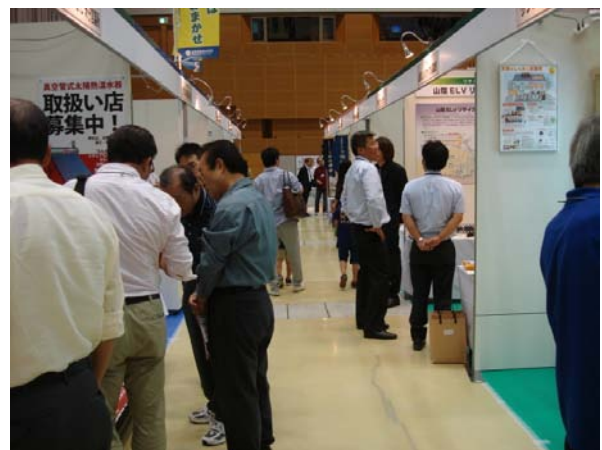
なお、本発表会は、企業や大学等のブース展示や基調講演などが行われる「とっとり産業フェスティバル」と同時に開催してマッチングの面で相乗効果を狙っている。

### 3. 平成26年度の開催概要

平成26年度の「山陰発技術シーズ発表会 in とっとり 2014」は、米子市の米子コンベンションセンター BiG SHiP（鳥取県米子市末広町294）において、9月26日（金）10:10～12:20 / 14:40～15:45 に開催した。本発表会は、9月26日～27日の2日間で開催された「とっとり



【シーズ発表会の状況】



【とっとり産業フェスティバル・企業展示会場】

写真：平成26年度の開催状況

産業フェスティバル 2014」との同時開催として、同会場の1階 情報プラザを発表会の会場として使用した。企業や大学等のブース展示は、同会場の多目的ホールで行われた。

また今回の発表会は、鳥取県西部地区を中心とする企業とのマッチングを意識して、「医療・食品・健康・環境・材料・機械」の6つに分野を絞った。発表件数は9テーマであり、島根大学、鳥取大学、鳥取環境大学、島根県立大学短期大学部、松江工業高等専門学校、米子工業高等専門学校、島根県産業技術センター、鳥取県産業技術センター、鳥取県衛生環境研究所の9機関から各機関イチ押しの新技術が発表された。

今回の発表会は、企業や鳥取県内の支援機関、フェスティバル出展者などから合計で約60名の方が来場され、各発表の聴講者数は、18名から26名であった。来場者は鳥取県内の方が大部分を占めたが、島根・岡山・広島・大阪・東京からも来場者があった。

#### 4. 最近の成果

キチンを解繊することで得られる天然繊維「キチンナノファイバー」を含有するスキンケア用の化粧品<sup>2)</sup>が、平成26年10月に、アサヒフードアンドヘルスケア株式会社から発売された。この「キチンナノファイバー」に関する技術シーズは、平成21年度の第1回目開催された本発表会において、鳥取大学大学院工学研究科・伊福伸介講師<sup>\*</sup>（<sup>\*</sup>役職は発表当時）が「カニ、エビ殻から抽出されるバイオナノ繊維“マリンナノファイバー”」と題して発表したものである。この発表会において企業との連携が始まったものではないが、「キチンナノファイバー」の認知度は発表を行うことによって向上した。しかし、平成21年度の発表当時から上記の発売までには約5年を要しており、短期間で実用化に至ったものではない。

#### 5. おわりに

技術シーズの実用化までには、上記の例のように最低でも数年の期間を要するものが多いように思われる。産学連携従事者には根気のよい活動が必要である。

#### 【謝辞】

「山陰発技術シーズ発表会 in とっとり」は、「とっとり産業フェスティバル実行委員会」、「中国地域産学官連携コンソーシアム（さんさんコンソ）」および発表機関の皆様のご協力により開催しています。ここに記して感謝申し上げます。

#### 【参考文献】

- 1) 加藤 優, 三須 幸一郎, 山岸 大輔, 清水 克彦:「鳥取県内のシーズ発表会「山陰発技術シーズ発表会 in とっとり」」, 産学連携学会関西・中四国支部 第5回研究・事例発表会 <講演予稿集>, pp.19-20, 2013.
- 2) アサヒフードアンドヘルスケア株式会社ホームページ: <http://www.asahi-fh.com/shizuku/milk/>, (2014/11/05 Access).

#### (発表者連絡先:

〒680-8550 鳥取市湖山町南 4-101 E-mail: m.kato@cjrd.tottori-u.ac.jp TEL: 0857-31-5703  
国立大学法人 鳥取大学 産学・地域連携推進機構  
研究推進部門 産官学連携コーディネーター 加藤 優)